

古墳時代とは…

今からおよそ1400～1700年前、首長や有力豪族の墓として墳丘をもつ墓を築くようになった時代です。古墳時代は、古墳の規模や形態、副葬品、時代背景の変化などを基準に、前期（3世紀末～4世紀頃）・中期（5世紀頃）・後期（6世紀頃）・終末期（7世紀頃：飛鳥時代）に分けられます。当時の権力者（首長や有力豪族）は、巨大墳墓を築くために多大な労働力を投入することで、権力を誇示しました。

3世紀末に近畿地方にヤマト政権が誕生すると、九州から東北地方南半部にわたる広い範囲で、前方後円墳をはじめとする数多くの古墳が築かれました。

宮城県内では4世紀末ごろから東北地方最大の雷神山古墳（名取市・全長168m）などの大型前方後円墳が出現し、県北の築館町にまで古墳が造られました。仙台平野においても、東北で第5位の規模を誇る前方後円墳である遠見塚古墳（全長110m）など、大小さまざまな古墳が造られました。仙台市内で確認されている古墳の中には、法領塚古墳（若林区一本杉町）や兜塚古墳（太白区根岸町）などのように墳丘が現存するものもありますが、時代を経るうちにけずられたものや、近年の開発によって失われたものもあります。

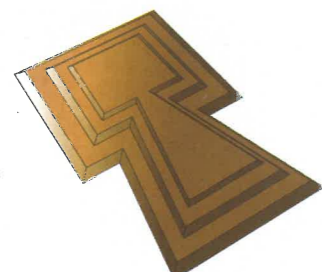
古墳とは…

土を盛り上げ、その中に棺を納めた墓で、その地域の首長や有力豪族などが埋葬されたと考えられます。形には前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳などがあります。形や大きさは葬られた人の社会的地位などを示しているといわれています。墳丘を階段状に造ったり（段築）、墳丘のまわりに濠をめぐらせたりしている（周溝・周濠）ものもあります。さらに、墳丘上や周囲に埴輪を立てて並べている古墳もあります。

棺を納めた主体部は、穴を掘って直接埋葬したものや、石室を造って棺を納めたものなどがあります。遺体が納められた棺の中や周りには、死者を送るための土器、武器・武具、装飾品などのさまざまな副葬品が納められました。



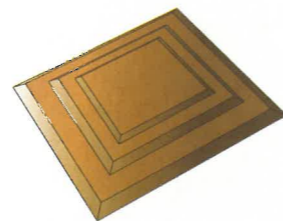
前方後円墳



前方後方墳



円墳



方墳



遠見塚古墳全景

よみがえる王の証

あかし 革盾と春日社古墳



副葬品出土写真



大野田古墳群12A区全景写真

春日社古墳全景写真

大野田古墳群で発見された古墳



この大野田古墳群では、1基の前方後円墳と、43基の円墳が見つかった。たくさんの古墳があるんだね。



仙台市文化財課
キャラクター
かすが
春日くん

仙台市内最大の円墳
春日社古墳

この春日社古墳から
草盾は出土
したんだ！



草盾復元図



ヨヘエタン

仙台市教育委員会は、富沢駅周辺土地区画整理事業に伴い、平成6年度から事業地内の遺跡発掘調査を継続的に行っています。大野田古墳群は、地下鉄富沢駅の東側にあり、中小の古墳が群集している遺跡です。
現在44基の古墳が確認されています。これらの古墳は5世紀後半から6世紀中頃(約1,500年前頃)にかけて築造されたものと考えられています。

大野田古墳群

国土地理院発行の2万5千分の1地形図(仙台西南部)をもとに作成



平成21年11月5日に撮影

かわたて かす がしや こふん 革盾と春日社古墳

仙台市内で最大の円墳・春日社古墳



春日社古墳は、5世紀後半に造られたと考えられています。大野田古墳群内にある最大の古墳であり、仙台市内でも最大の円墳です。

外周の径が約47m、内周の径が約30mあります。

2つの埋葬施設



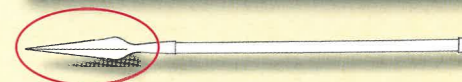
埋葬施設は2つありました。被葬者の棺や副葬品などを納めるための埋葬施設のことを「主体部」と言います。革盾は、第2主体部から出土しました。墳丘の規模や形態、出土した埴輪などから、大野田古墳群の古墳に葬られた有力者のなかでも、特に上位の人物が葬られた古墳であると考えられます。



革盾の出土

革盾は、第2主体部の南側から表側を上にした状態で出土しました。革盾の本体である革や木製の枠は、腐食して残っていませんでしたが、仕上げとして盾の表面に塗った漆が膜状になって発見されました。

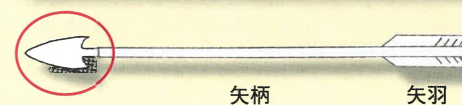
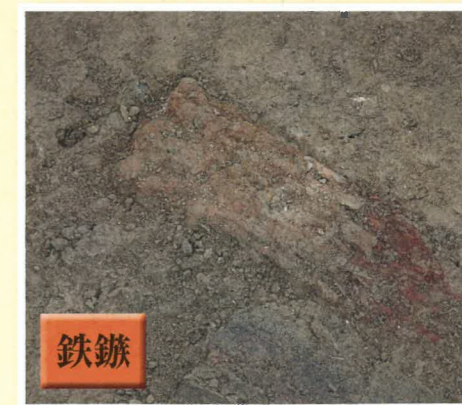
このほか、第2主体部からは、棺を納めた穴や、鉄矛、鉄鏃(鉄のやじり)などの副葬品も発見されました。革盾の出土は、東北地方では初めてのことです。また全体に施された文様を明瞭に観察できるほど保存状態の良い盾の出土は、全国的にみても極めて数が少なく、大変重要な発見です。



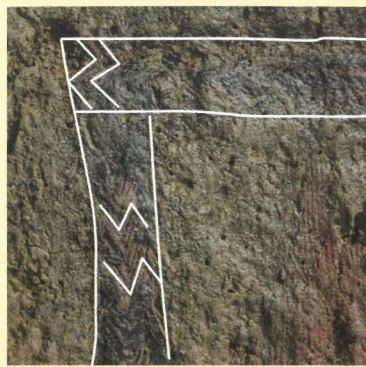
その他の副葬品出土

鉄矛 鉄矛は1点、革盾の上に置かれた状態で出土しました。柄の部分はわずかに残存するのみで、矛先の部分だけがみつかりました。

鉄鏃 鉄鏃(鉄製のやじり)とは、矢の先端にとりつけられるものです。30本束ねられた矢が副葬されていました。矢柄の部分はさびて鉄鏃付近にのみ残存し、矢羽の付近には、彩色されていた黒漆と赤漆が確認されました。

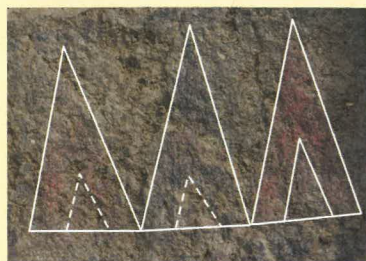


革盾の構造と文様



あやすぎもん 綾杉文

刺繍で山の連続を表現しています。革盾全体を囲むように配置されて、他の文様との区画に用いられています。

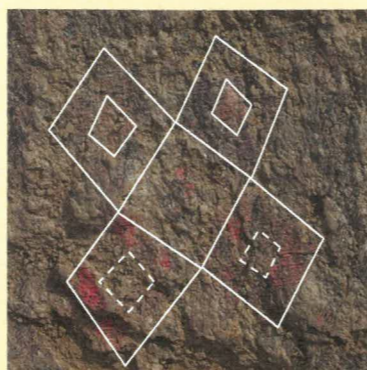


きよしもん 鋸歯文

色合いの違う2種類の赤で表現した二重の三角形が連続しています。三角形が連続していることで鋸の歯のように見えます。



春日社古墳出土革盾 復元画



ひしがたもん 菱形文

色合いの違う2種類の赤で連続した菱形を表現しています。綾杉文で区画された、革盾の中央部に描かれています。

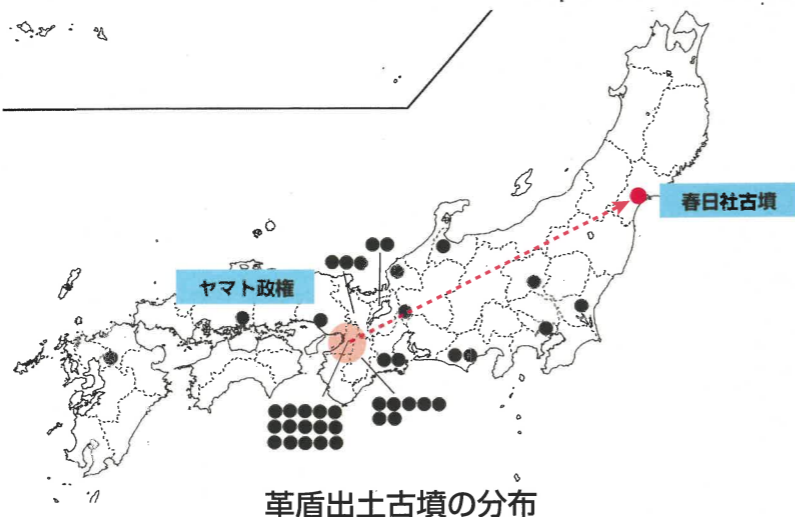
革盾は本来、木製の枠に動物の革を張って作られます。

革に穴をあけて刺繍糸を通し、漆を塗り、彩色によって文様を表現します。綾杉文で区画し、内側を菱形文、外側を鋸歯文で飾る文様は全国で出土した革盾にほぼ共通して見られるスタイルです。

王の証 革盾

革盾の出土例は、近畿地方に集中しています。当時、近畿地方にあったヤマト政権は、革盾を含む武器・武具などを同盟関係にある各地の有力者に配ることで新たな政治的同盟関係を形成していきました。

春日社古墳で発見された革盾も、各地で出土した革盾と文様や作り方などが非常に似ており、ヤマト政権からもたらされたものと考えられます。



革盾出土古墳の分布

※橋本達也(1999)「盾の系譜」をもとに作成。
●は、都道府県ごとの革盾出土古墳の数を示す。

革盾の保存

革盾は、現地から土ごと切り取り、保存されることになりました。展示できるようになるまで約2年の歳月を要しました。古墳時代の革盾が完全な形で保存処理できたのは、全国でもめずらしいことです。



①革盾の表面を、丁寧に保護します。



②革盾の周りにウレタンを吹きつけ、固定します。



③クレーンで吊り上げ、作業場所へ移動します。



④革盾を反転させて、裏側を上 にします。



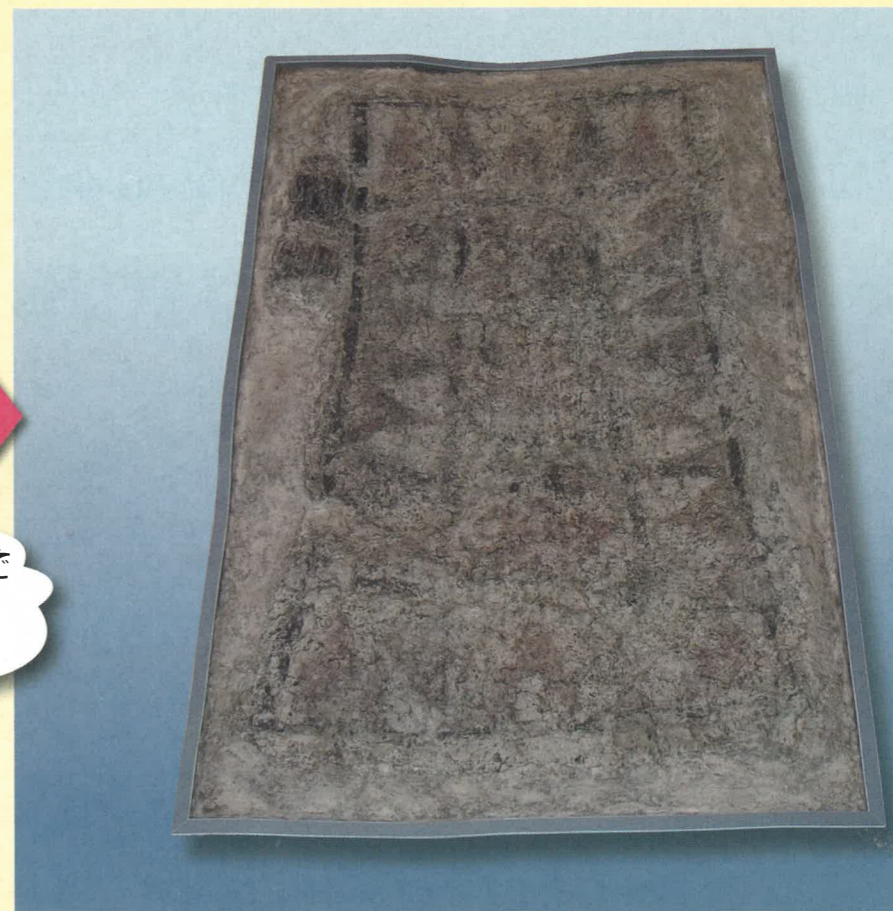
⑤裏側の土を厚さ0.5cm～3cmまで削り取ります。



⑥再び反転し、表面の保護材をはがしクリーニングします。



⑦約6ヶ月間、革盾を薬品(PEG液)に浸します。



⑧余分な薬品をふき取り、表面を仕上げて終了です。



長く変わらない姿で保存できるようになったね!

ヨヘエクン